

栲原町総合庁舎 (優秀賞・四国地区)



全景



エントランス

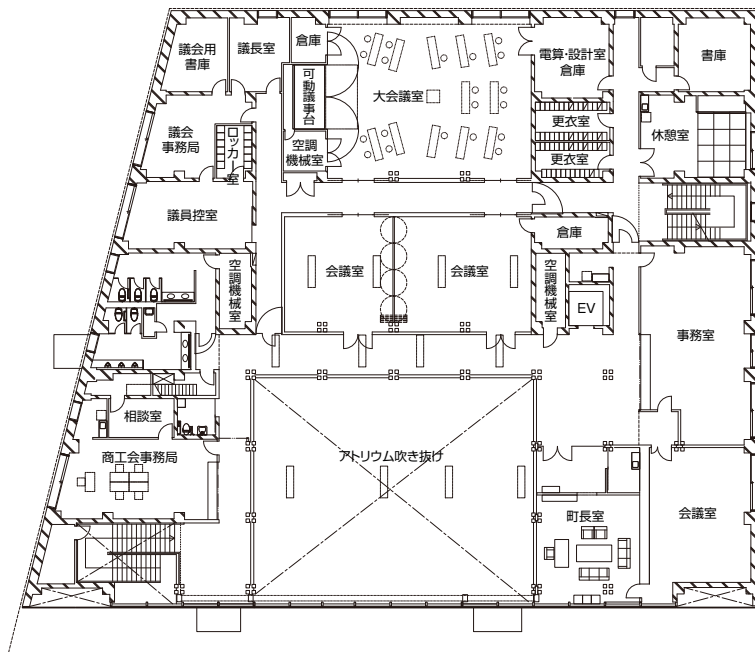


屋根太陽光パネル

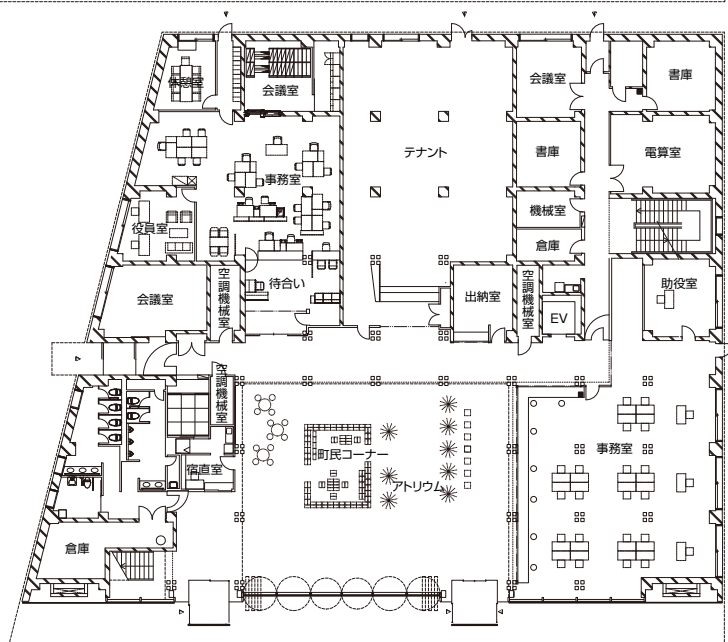
所在地 : 高知県高岡郡栲原町栲原 1444 番地 1
 敷地面積 : 6,020.94㎡
 建築面積 : 1,628.25㎡
 延床面積 : 2,970.79㎡
 構造・階数 : W造一部RC造 地上2階 塔屋1階 地下1階
 事業者 : 栲原町
 設計者 : 慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科 + 隈研吾建築都市設計事務所
 施工者 : 飛鳥・ミタニ建設工事JV
 竣工年月 : 平成18年10月
 総工事費 : 1,222百万円

平成18年に完工した「栲原町総合庁舎」は「森林文化社会」を基盤にした「環境モデル都市栲原」のランドマークに相応しい、優れた木造公共建築物であり美しい。栲原には、僅か10㎡程度の「茶堂」と呼ばれる旅人をもてなす歴史的施設が、今日でも多く現存している。この総合庁舎は、高知県最奥、宇土の県境にあるこの地を訪れる人々の心のランドマークであり、且つ町民のコミュニケーションスペースとしての機能を併せ持った現代の茶堂である。1階のガラス大扉は開放が可能で、時に庁舎ロビーと庁舎前の広場が一体となった祝祭空間が出現する。庁舎は役所ではなく日常のコミュニティスペースであり、かつ桃源郷のように設えられたこの庁舎周辺一連の木造建築物群の隣となっている。しかも庁舎の構造体や内装は、最大限地場の木材を活用した設計となっている。構造体には、自然空調を前提とした木造ダブルラティス構造による外部環境と呼吸できる仕組みや、太陽光発電、氷蓄熱、木製受水槽、木材断熱機密サッシやブラインドが組み込まれ、CASBEE評価Sランクを得ることに成功している。ともあれ、収縮する一方の地域や地方の、深めるという新たな豊かさを確立する方向が力強く空間表現されたこの建築物は、深刻でネガティブになりやすいこうした地方に、新風をもたらす契機となろう。

(涌井史郎委員)



2階平面図



1階平面図

梶原らしさにあふれた庁舎 ● 山本 真美

私の地元である梶原町の庁舎は、梶原産の木材をふんだんに使った、まさに林業の町梶原にふさわしい建物です。

正面に向けた壁はその多くがガラス張りになっていて、一歩中に入ると、広い吹き抜けがあります。外の光を取り入れる巧みな工夫がされていて、他の建物では感じるここのない開放感を満喫することができます。

アトリウムの中央には茶室があります。おもてなしの心で、来訪者をお迎えしようとする梶原町ならではの趣向です。その極め付けは、「お雛様」や「端午の節句」などの年中行事では、その時々に応じた飾り付けをして、訪れる者を和ませているところにあります。

アトリウムには柱時計がかけられています。その柱時計からは決まった時間に津野山神楽の音楽が流れてきます。津野山神楽は国の重要無形民俗文化財に指定され、1100年の歴史をもつ梶原町の歴史とともに舞い継がれてきたもので、町民のこころ

の拠り所と言えるものです。みずからの文化をたいせつにし、町を挙げて伝統を守って行こうとする姿勢を感じるのには、私だけではないと思っています。

また、アトリウムにはミニコンサートが開催できるように設計もされており、あくまで町民のための施設といった印象を強くします。

その奥には、JA・銀行・商工会議所が並んでいて、町民のための施設であるということを感じることがあります。待合には椅子がたくさん用意されていて、町民のみなさんがにぎやかに会話を楽しんでいる光景をたびたび目にします。

この庁舎は外観だけでなくその内部も梶原らしさにあふれて、サービス精神に富み、梶原の町を愛している人々の思いを取り込んでいます。まさに、梶原町のシンボルにふさわしい建物といえるものです。

(梶原高校3年生)